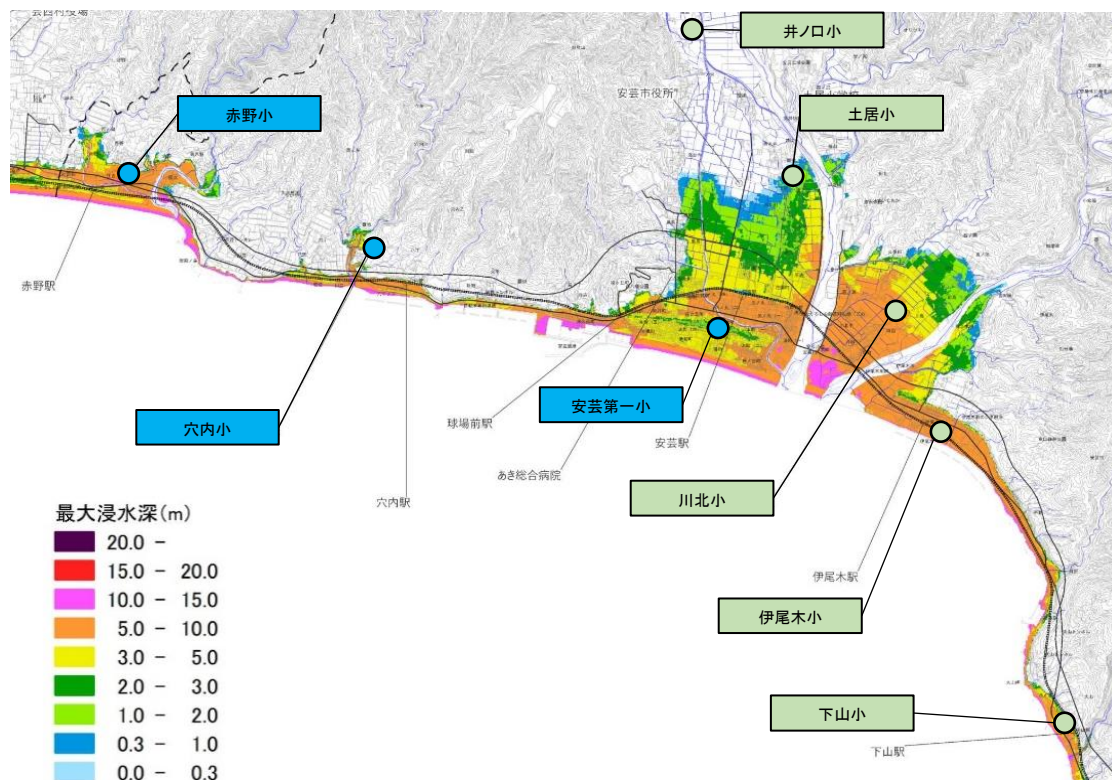


安芸市立小学校移転・統合について (令和7年度 概要版資料)

①安芸市立小学校の現状 その1

○南海トラフ地震による津波想定

- 8小学校中6校（下山小、伊尾木小、川北小、土居小、安芸第一小、赤野小）が津波浸水想定区域内に位置

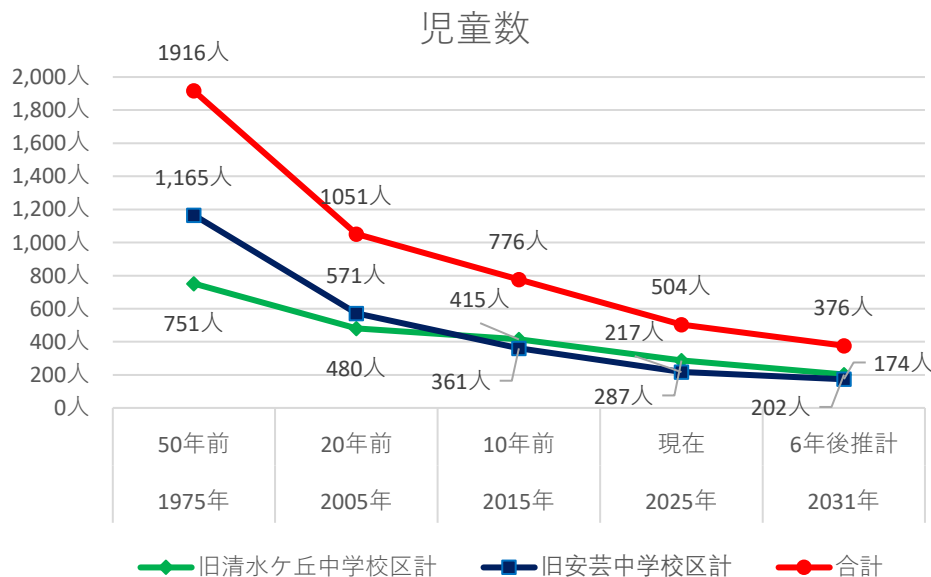


	浸水深	30cm 到達時間
旧清水ヶ丘中学校区		
下山小	2~3m	60分以上
伊尾木小	5~10m	30~40分
川北小	5~10m	60分以上
土居小	0.3~1m	60分以上
井ノ口小	なし	なし
旧安芸中学校区（芸西中学校含む）		
安芸第一小	1~2m	60分以上
穴内小	なし	なし
赤野小	5~10m	30~40分

①安芸市立小学校の現状 その2

○人口及び児童の減少

- 総人口は、50年前は約1.6倍（50年で38%減）、20年前は約1.4倍（20年で28%減）、10年前は約1.2倍（10年で17%減）
- 20～39歳の女性人口は、20年前は約2.0倍（20年で50%減）、10年前は約1.5倍（32%減）
- 小学生人口は、20年前は約2.1倍（52%減）、10年前は約1.5倍（35%減）
- 児童数は、50年前は約4.1倍（76%減）、20年前は約2.1倍（52%減）、10年前は約1.5倍（35%減）
- 8小学校中4校（下山小、伊尾木小、穴内小、赤野小）で複式学級による運営
- 児童数は、6年後には75%（25%減）になると予想
- 6年後は8小学校中6校（下山小、伊尾木小、川北小、井ノ口小、穴内小、赤野小）で複式学級による運営と予想



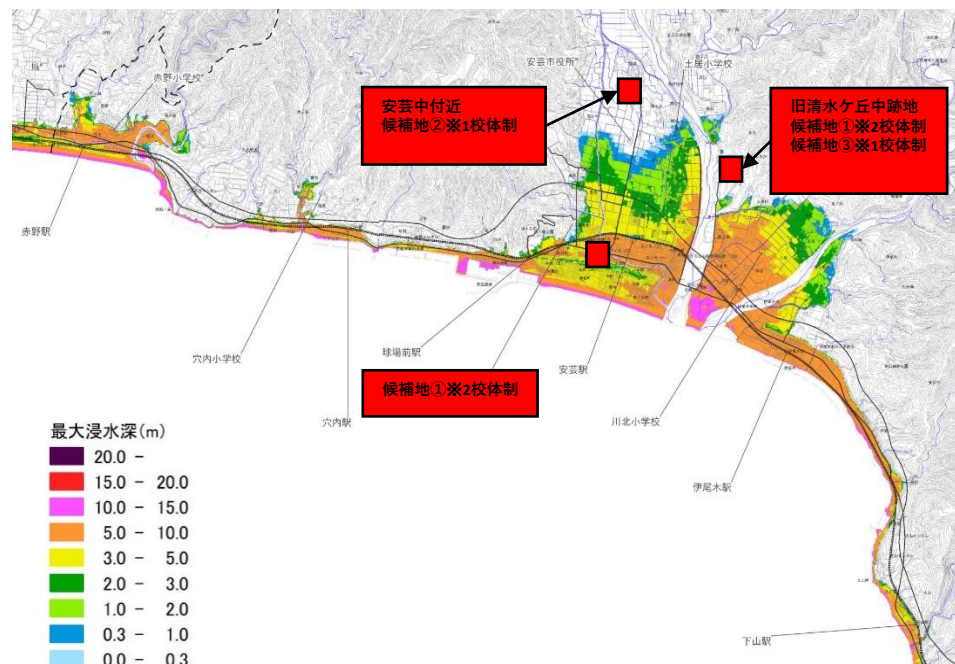
年度	1975年 50年前	2005年 20年前	2015年 10年前	2025年 現在	2031年 6年後
市の人口					
全体	24,950	21,308	18,458	15,377	
20～39歳女性		2,068	1,510	1,027	
小学生		1,055	779	506	
旧清水ヶ丘中学校区					
下山小	56	14	4	4	3
伊尾木小	128	70	38	17	20
川北小	143	170	135	55	47
土居小	203	116	156	142	92
井ノ口小	221	110	82	69	40
計	751	480	415	287	202
旧安芸中学校区（芸西中学校含む）					
安芸第一小	956	475	297	176	150
穴内小	74	35	30	27	11
赤野小	135	61	34	14	13
計	1,165	571	361	217	174
合計	1,916	1,051	776	504	376

②移転統合の目的

- 南海トラフ地震に備え、子どもたちの命を最優先した移転
- 児童が減少するなかであっても将来を見とおし、教育の質と持続可能税を確保する
- 教育予算の集中投資により、学びと教育の質を向上させる

③移転統合（案）

これまでの2校体制（案）に、令和6年度説明会で意見のあった1校体制（案）を追加。



区分		候補地	現小学校区	R15推計 児童数	R15推計 学級数/学年	R7概算 事業費	R7概算 バス費用
2校 体制	案 ①-1	旧清水ヶ丘 中学校跡地	下山小、伊尾木小、川北小、土居小、井ノ 口小※5校→1校	198人	1～2学級	97億円	年49百万円
		安芸第一 小学校	安芸第一小、穴内小、赤野小※3校→1校	148人	1学級		
	案 ①-2	旧清水ヶ丘 中学校跡地	下山小、伊尾木小、川北小、土居小、井ノ 口小、穴内小、赤野小※7校→1校	221人	1～2学級	98億円	
		安芸第一 小学校	安芸第一小※1校→1校	125人	1学級		
1校 体制	案②	市立安芸 中学校付近	※8校→1校	346人	2学級	49億円	年89百万円
	案③	旧清水ヶ丘 中学校跡地	※8校→1校	346人	2学級	52億円	年74百万円

④移転統合（案）のまとめ

項目	1校体制（標準規模）案②③ ※長期にわたり1学年2クラス編制が想定される	2校体制（標準規模）案①-1、①-2 ※中長期的に1学年1クラス編制が想定される	現体制（小規模校） ※8小学校中4校が複式学級を運用
児童の安全面	◎ ・津波浸水想定区域外への設置により児童の安全を最大限確保	△ ・安芸第一小学校は津波浸水想定区域内に位置し児童の安全面に課題が残る	× ・8小学校中6校が津波浸水区域内に位置し早期に対応が必要
学校での学習面	◎ ・多様な考え方にふれ合うことや多様な学習・指導形態を取りやすい ・学年単位で授業研究が進めやすい ・児童一人ひとりに目が届きにくくなる	○ ・多様な考え方にふれ合うことや多様な学習・指導形態を取りやすい ・児童一人ひとりに目が届きにくくなる	△ ・児童一人ひとりに目が届きやすい ・多様な考え方にふれ合う機会が少なくなることや多様な学習・指導形態を取りにくい
学校での生活面	○ ・切磋琢磨することを通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい	○ 同左	△ ・切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい
学校経営	◎ ・教職員のバランスの取れた配置が行いやすい	○ ・教職員のバランスの取れた配置が行いにくい	△ ・教職員のバランスの取れた配置が難しい
児童・保護者の負担	△ ・通学距離、時間が長くなり通学面での児童の負担→スクールバスにより軽減 ・保護者の負担が分散 ※安芸中の近くなれば便利との声がある	△ 同左	○ ・全体的に通学距離、時間の面で有利 ・保護者の負担が集中
地域への影響	△ ・学校を中心とした地域行事、活動ができなくなる→地域による廃校を活用としたコミュニティ活動体制の支援	△ 同左	◎ ・学校を核としたコミュニティ活動が継続
財政面	○ ・学校の建設費用が抑えられ ・スクールバスの運行に多額の費用を要する ・将来世代の負担を軽減できる	△ ・スクールバスの運行に一定の費用を要する	× ・現施設の維持管理又は、建設費に多額の費用を要する ・スクールバスの運行はない
文部科学省 手引き要約	※適正規模	教育の課題を整理したうえで、統合も含め今後の教育環境の在り方を検討が必要がある。	教育上の課題があり統合等の検討が必要。困難な場合は、メリットを生かし、デメリットを解消・緩和の検討・実施が必要。

⑤目指す小学校

○学校教育 児童の安全を確保し、集団のなかで、多様な考え方にふれ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することにより、一人ひとりの資質・能力を伸ばすとともに、社会性や協調性、たくましさを育む。

○学校施設・運営

(基本) バリアフリー、空調完備、ICT機器整備の充実

(さらに) 通学支援、相談体制の充実、不登校傾向児への配慮、図書環境の充実、遊具の充実、安全性の確保、教員の負担を軽減し子どもとの時間を確保

(地域とのつながり) 居住地単位の地域学習やグループ学習、地域活動への参加を促進

(子育て支援機能) 学童保育の併設、放課後活動の充実

(その他) 学校施設の解放エリアの設定、防災拠点としての整備

⑥まとめ

(市の考え) これまでの2校体制に加えて1校体制を検討した結果、1校体制には教育面、財政面での優位性が見られる一方、通学に係る児童の負担を始めとした課題も多い。このため、説明会で意見を聞いたうえで判断を行います。

○2校体制 案①-1 案①-2旧清水ケ丘中学校跡地、安芸第一小学校
安芸第一小学校については、津波浸水想定区域内に位置することから、児童の安全性に課題が残る

○1校体制 案②安芸中学校付近 小中連携が図られ教育面で優位性が高い
案③旧清水ケ丘中学校跡地 津波に加え洪水想定区域外で安全面で優位性が高い

(今後の予定) 説明会の意見集約、内部協議 → 最終決定(6月)

※事業着手(基本構想、基本設計、実施設計、開校準備委員会設置、各種工事発注)

○未来を担う子ども達の安全と教育環境について、将来を見据えた視点で、ご意見をください

- ・1校体制、2校体制、それ以外について
- ・立地について
- ・目指す小学校について(どのような学校にしたいか)
- ・地域との関わりについて
- ・その他